

只今ご紹介をいただきました「乙飛第六期生」故海軍少尉中西義男の弟中西明でございます。



まことに僭越ですが、本日まで参列のご遺族ならびに諸般の事情で参列が叶わなかった全国の子科練戦没者のご遺族を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

予科練ご出身の方々にとっては生涯の思い出あるこの土浦の地雄翔園で、霞ヶ浦の董風を肌と感じながら、第四十八回予科練戦没者慰霊祭が、厳肅かつ盛大に執り行われましたことを心からお喜び申し上げますとともに、私ども遺族をご招待いただき、心から御礼申し上げます。

本年は、先の大戦が終結して七十年の節目の年に当たります。七十年という歳月は、一人の人間の生涯に相当する永い時間であり、現在ここに居る我々も戦後様々な困難の中を生き抜いて参りました。戦災跡からの復興、食糧難、追い打ちのような災害、と枝挙に暇がありませんが、いま振り返って見ますと、「戦争が無かった七十年の平和」ともいえるのではないかと思います。そして私は、この今日の平和の礎こそが戦没された数多くの御霊によって築かれたものだということを常に脳裏に置き、感謝を忘れてはならないと思っております。

さて、七十年という歳月を振り返りますと、皆さ

んそれぞれに様々な出来事がありだったのではないかと思います。私方でも兄に關する奇跡的な出来事がありました。偶然に、もたらされた兄に關する情報と、遺族の方々のきめ細やかなお心配りで見られた奇跡ですが、どのご遺族にも起こり得る話だと思っておりますので紹介致します。

最初の奇跡は、書店で兄の名前が載っている本を偶然見つけました。しかし、その場で購入せず出版社へ電話で注文したので、私の存在が出版社へ、更には、兄と同期の方のご遺族へと伝わった事です。

二つ目の奇跡は、そのご遺族が数年前の子科練慰霊祭で、兄の戦死直前の戦地生活の様子を記述した図書が存在することを、同席されていた方からお聞きになり、連絡して下さった事です。

また、その情報を提供して下さった方は、私の家から山一つを隔てた隣りの県にお住まいでしたので、早速連絡をとってお会いし、その本を書かれた方が乙飛七期の方であることや、その部隊の活躍ぶり等詳細を聴くことが出来ました。

兄は、昭和十八年六月ソロン群島の戦いで未帰還となり、二十四才で戦死しているのですが、実は、入籍できていない妻と当時一歳の女兒が岩国にいたのです。

この結婚は両家とも認めていましたし、兄の英霊帰還や、市、区主催の合同慰霊祭には中西家の家族として参列しておられたのですが、最終的には入籍せず故郷の広島に戻り、終戦後に再婚されました。父は、その女兒を成人するまで孫として扱い、この雄翔園完成記念の慰霊祭にも同伴して参列しています。し

かし、その娘が成人して結婚してからは徐々に縁が遠くなり、この半世紀は音信不通の状況となりました。

私の家には、生後七か月の我が子を抱いた兄の写真が一枚残されています。その写真は、兄の乗船していた航空母艦が修理で呉に帰港した際に、三日間の休暇が出たので、急遽、岩国から母子を同伴して大阪の両親に紹介したときに写したものです。生涯でただの一度だけ我が子を腕に抱いた家族の写真です。兄はこの後、妻子二人を大阪に残して自分だけが帰艦、そのまま再出撃したのですが、この写真を見たかどうか、また最後の搭乗時に肌身につけていたかは不明です。

私は、この度の一連する出来事が、兄の「心残り」を私に気付かせようとしている様にも思え、昨年夏から兄嫁の実家の姓と旧住所を頼りに、縁故を探しました。

その結果は、残念ながら二人とも既に彼岸へ旅立っていることが判明しました。けれども、その探索の過程でこの姪と親しかった従姉妹の所在を知り、直接会って詳しい状況を聴くことが出来ましたし、生前の写真や身に着けていたネックレスも頂きました。

私どもは、昨年十一月に改めて母子二人の法要を営み、兄の墓へ、二人の写真と姪が愛用していたネックレス、そして戦友が生存、帰国後、出版された本も入れて、七十二年振りに、我が子を兄の腕で抱き締めて貰うことが出来ました。私はいま、後継ぎの二男として可愛がってくれた兄に一つ恩返しが出

来たかな、とホツとしています。

そして、これも、兄と同期の方のご遺族が親身になつてご丁寧な情報を提供して下さいましたこと、また、歴史研究家の方が、ご自分の研究を通じて知り得た情報を我々遺族に提供していただけたお蔭だと深く感謝しています。

年月とともに遺族の高齢化が加速度的に進む現状のなかで、私は予科練戦没者の遺訓の顕彰と労苦に対する感謝を忘れず、更には貴重な資料や情報を風化させることなく後世へ伝える為にも、我々遺族相互の、より一層のキメ細かい連携と、海原会のような慰霊顕彰を目的とする組織の維持そして継承が必ずではないかと強く思っています。

最後に、戦没同窓生の御霊の安らかなれと、長年にわたり慰霊祭を取り行っていたいただきました公益財団法人海原会様、そして予科練生の聖地でもあるこの雄翔園を護り続けていただいております陸上自衛隊武器学校長様を始め職員の皆様、毎年慰霊演奏をいただいております施設学校音楽隊様、さらには本日慰霊飛行をいただきました海上自衛隊下総教育航空集団様並びに日の丸飛行隊の皆様から敬意を表します。

また、この地に航空隊が創設されたために数次の空襲を受け、多くの親族の方々が犠牲になられたにもかかわらず、戦後、予科練戦没者の慰霊のために一方ならぬご支援をいただいております地元阿見町町長様を始め、町民の皆様、本日出席しておりますます遺族並びに本日都合で出席できませんでしたが、すべの遺族を代表して、心から感謝申し上げます、遺族代

表のご挨拶とさせていただきます。

平成二十七年五月二十四日

遺族代表 乙飛第六期

故海軍少尉 中西義男

弟 中西明